

養成研修コース(教育相談)
—教育相談コーディネーター養成—

岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当

教育相談コーディネーター養成の背景

- 岩手の教育振興: 学校不適応対策
10年間の取組(工程表: H21~H30)
- いわて県民計画: 第2期アクションプラン
(H23 ~H26)
- 岩手県東日本大震災津波復興基本計画
(H23 ~H30)

岩手の教育振興: 学校不適応対策

H21~H22	H23~H26	H27~H30
問題行動等の未然防止, 早期発見・対応		
教育相談体制の改善		学校・ 専門機関が 連携した 教育相談 体制の充実
教育相談 体制の検討	地域相談体制の充実 総合教育センターの 相談機能強化	
スクールカウンセラーの配置拡充		

いわて県民計画: 第2期アクションプラン (H23 ~H26)

- IV教育・文化
政策項目No26 豊かな心を育む教育の推進

- ③教育相談機能の充実
教育相談コーディネーター養成, 配置
- ④幼児児童生徒の心のサポートの充実

岩手県東日本大震災津波復興基本計画 (H23 ~H30)

- ①安全の確保
- ②なりあいの再生
- ③「暮らし」の再建

Ⅲ教育・文化

学校教育の早期正常化のため,
被災等によってダメージを受けた
**児童生徒へのきめ細かな対応や
心のサポートのための体制強化**

基本的な考え方【現状と課題】

教育相談の必要性・重要性

- いじめや暴力行為などの問題行動や不登校など学校不適応への対応が急務

**教育相談体制の充実のためには
臨床心理士等がスクールカウンセラー
として学校への支援が不可欠**

- 県内の臨床心理士約130名 マンパワーが不足
- 専門知識・技能を持った教員の必要性

基本的な考え方【現状と課題】

中長期的な視点での
教育相談体制整備の必要性

- 県土が広い
- 初期対応や継続的対応において、タイムリーに連携できるような教育相談体制が不十分
- 校内外の学校を支えるネットワークの構築が不十分
- 教育相談担当者の活動の継続性を担保する体制が不十分

教育相談コーディネーターの養成

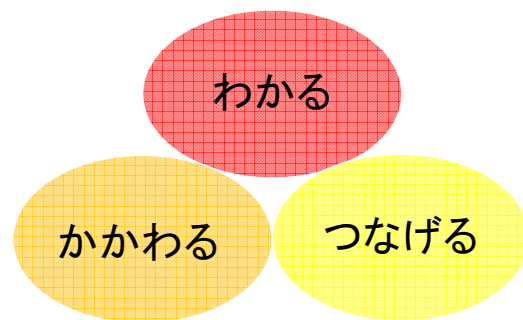
- ◎ 児童生徒および学級集団へのよりよい初期対応・継続的支援のできる人材を養成する
- ◎ 学校における資源を調整し、チームで支援できる人材を養成する
- ◎ 地域における関係機関と連携ができる人材を養成する

学校心理士と同等の専門性

養成する専門性の方針

- 教員としてのアイデンティティを大切にする
- 現場の役に立つという視点に立つ
- 連携・協働という視点を大切にする
- 岩手の地域性を考慮する

養成する専門性



養成する専門性

わかる

- ・個(事例)の理解と見立て
- ・集団(学級)の状態の見立て
- ・心理社会面, 精神疾患, 発達障がい等の知識

養成する専門性

- ・カウンセリング, 特別支援教育
- ・集団づくり, 予防的開発的援助
- ・心理社会面, 学習面, 進路面の課題への対応

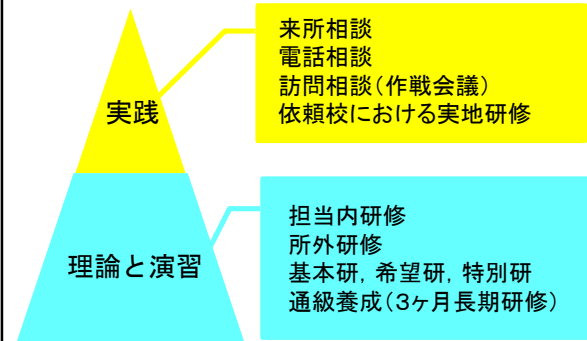
かかわる

養成する専門性

- ・学校内外での作戦会議(コンサルテーション)
- ・学校内外での調整(コーディネーション)
- ・関係機関との連携(ソーシャルワーク)
- ・危機介入

つなげる

養成プログラムの構成



理論と演習

わかる(事例の理解と見立て)

- ・個や集団の**見立て**(アセスメント)
- ・**ケース検討会**(嘱託医, 研修指導主事)
- ・見立てに必要な**基礎知識**, **基礎理論**
- ・**文献講読**(月1~2冊専門書の輪読)
- ・**検査法**(WISC-III, Q-U)

理論と演習

かかわる一個への援助の理論と技法

- ・**カウンセリング**基礎, カウンセリング技法(ブリーフ及び認知行動的カウンセリング)と演習
- ・教育相談概論 ・生徒指導概論 ・保護者対応
- ・不応 非行暴力 ・自殺予防 ・復興教育
- ・**特別支援教育**基礎
- ・特別支援教育コーディネーター
- ・障がい種別 ・障がい児教育法

理論と演習

かかわる一集団への援助の理論と技法

- ・**集団づくり**
- ・人間関係づくり(グループワークトレーニング)
- ・対人関係を作る技術(ソーシャルスキル)
- ・ストレスへの対応(ストレスマネジメント)
- ・ライフスキル教育
- ・キャリア教育 ・道徳教育 ・特別活動
- ・健康教育 ・学級経営

理論と演習

つなげる一チーム支援の理論と実際

- ・**作戦会議**(コンサルテーション)
- ・**調整**(コーディネーション)
- ・関係機関との**連携**(ソーシャルワーク) 医療, 福祉, 司法, 就労支援
- ・**危機介入**

担当内研修外部講師

- 岩手大学, 岩手県立大学の教員
- 医師, 社会福祉士, 臨床心理士
- 児童相談所所長
- 県警察本部(少年課, 被害者支援)
- 家庭裁判所調査官, 少年鑑別所専門官
- いわて・もりおか若者サポートステーション職員
- 県内外の小中高, 特支校教員
- H24 文科省復興教育事業による講師派遣

実践

◎研修指導主事の指導による実習

来所相談(面談)・電話相談

- ・情報→見立て→援助→記録(ふり返し)
→次回の準備

訪問相談(作戦会議)

- ・作戦会議の進行, 担任等への個別支援

依頼校での実地研修

- ・集団づくり, 学級集団の見立てと支援

主体的に学び続ける教員として

- ポートフォリオとしての日誌
日々の学びと課題の記録
月に1度, 学びと課題の整理
自分自身の課題とテーマの発見
- 研修の記録
- 文献講読の記録

研修のゴール像

- ◎教育研究発表会での事例ポスター発表
7月から面談実習開始(3事例程度担当)
12月に発表事例を決定



H23 教育研究発表会の様子

研修のゴール像

- ◎「学校心理士」資格申請用事例レポート
執筆要項に則った形式で作成

資格取得スケジュール

- 修了年 3月 中旬 事例レポート完成
- 修了年 6月30日 申請締切
- 修了年 8月 上旬 試験
- 修了年10月 中旬 合格発表

研修の流れ(概要)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		面談技法 見立て			特別支援教育 (3ヶ月長研)						
	集団づくり		見立て								
					作戦会議・関係機関						
			電話		来所相談(面談)						
		集団 づくり			訪問相談(作戦会議)						
									ポスター作成	レポート	
									教育研究発表会	受験 準備	

活用の現状と課題

養成コース(教育相談)修了後の動き

- ◎教育相談コーディネーターとしての活動
- 教育センター教育相談希望研修の講師
- 校内研修会の講師
- 各種研修会での事例発表
- 実地研修の受け入れ先
(学校内の調整, 長研究生支援)
- 「学校心理士」資格取得

今後の課題(1)

◎県の施策としての教育相談体制づくり

◆人材の確保(募集・時期・選考方法)

- ・研修への意欲が旺盛, 心身ともに健康かつ
人格, 見識ともに優れている者。
- ・学校心理士の資格取得に意欲がある者。
- ・沿岸被災地への学校支援に意欲がある者。

◆予算の確保

◆確かな活用

「職」としての教育相談コーディネーターの
活動内容, 役割の明確化

今後の課題(2)

◎教育相談コーディネーターのネットワーク

教育相談コーディネーター連絡協議会

◎研修機会の保証

- ・長期研修生フォローアップ研修
- ・学校心理士研修会

◎沿岸被災地での活用

期待される効果

- 1)教育事務所を拠点とした管内地域の学校支援
初期対応や困難事例の継続的な学校支援
(時間的・経済的負担のない支援)
- 2)学校の対応力の強化
児童生徒へのよりよい初期対応・継続的支援
- 3)スクールカウンセラーとの協働
学校が必要とする支援の緊急性や必要性に応じた
スクールカウンセラーの活用
- 4)不適応を予防するための取り組みの充実

おわりに

岩手型教育相談コーディネーターの養成

- 学校心理士会の概念
 - +岩手の地域性
 - +教員のアイデンティティをより重視